

## 定義

試合開始時にはプレーヤーはすべてオンサイドである。試合が進むにつれて、オフサイドの位置となることがある。そのようなプレーヤーは再びオンサイドとなるまでに、競技に参加すれば反則が適用される。

一般のプレーでは、プレーヤーがボールを持っているかまたはプレーした場合に、そのプレーヤーの前方にいる味方のプレーヤーはオフサイドである。

オフサイドとは、プレーヤーが一時的にプレーできないことを意味し、かつ競技に参加すれば反則が適用される位置にあることをいう。

一般のプレーでは、味方の行為か相手側の行為かのいずれかによりオンサイドとなりうる。しかし、もしそのオフサイドプレーヤーがプレーを妨げたり、前方、または、ボールの方へ動いたり、またはキックされたボールの着地点から10メートル後方へ離れなければ、オンサイドとはならない。

### 11.1 一般のプレーにおけるオフサイド

- (a) オフサイドの位置にいるプレーヤーが、反則となるのは次の3つのうちのいずれかを犯した場合のみである。
- ・プレーを妨げる、あるいは
  - ・前方、または、ボールの方へ動く、あるいは、
  - ・本条4の「10メートル規則」を守らない

プレーヤーは、オフサイドの位置にいるからといって自動的に反則となるのではない。

故意でないスローフォワードを受けとった場合、そのプレーヤーはオフサイドではない。

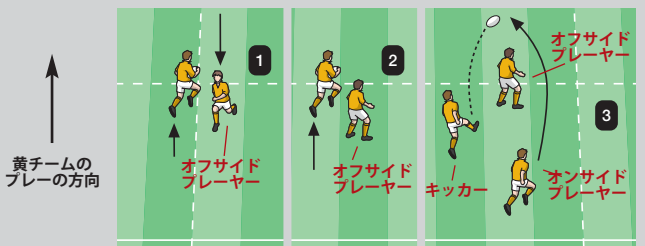
プレーヤーはインゴールでもオフサイドとなる。

- (b) **プレーの妨害**：オフサイドの位置にいるプレーヤーは競技に参加してはならない。すなわち、ボールをプレーしたり、相手側を妨害してはならない。
- (c) **前方へ動くこと**：味方のプレーヤーが前方へキックしたとき、前方にいるオフサイドプレーヤーは、オンサイドになるまでは、ボールをプレーしようと待っている相手側のプレーヤーまたはボールが地面に着く地点に近づいてはならない。

### 11.2 味方の行為によりオンサイドになる場合

一般のプレーにおいて、オフサイドにあるプレーヤーが、自らのまたは味方の行為によりオンサイドになるには次の3つの方法がある。

- (a) **プレーヤー自身の行為**：最後にボールをキックしたか、ボールに触れた味方のプレーヤー、または味方のボールキャリアーの後方に自ら走ったとき、そのプレーヤーはオンサイドになる。
- (b) **ボールキャリアーの行為**：味方のプレーヤーがボールを持って自分より前方へ走り出たとき、そのプレーヤーはオンサイドとなる。
- (c) **キッカーまたは他のオンサイドプレーヤーの行為**：ボールをキックした時（またはその後）のキッカーのいた地点、またはその後方にいた味方のプレーヤーか、またはキッカーが、オフサイドプレーヤーの前方に走り出たとき、そのプレーヤーはオンサイドとなる。前方に走ったときは、味方のプレーヤーは、タッチまたはタッチインゴールにいてもよいが、そのプレーヤーが他のオフサイドプレーヤーをオンサイドとするには、競技区域に戻っていないなければならない。



オフサイドプレーヤーがボールキャリアーの後方へ走る

ボールを持った味方のプレーヤーに追い抜かれる

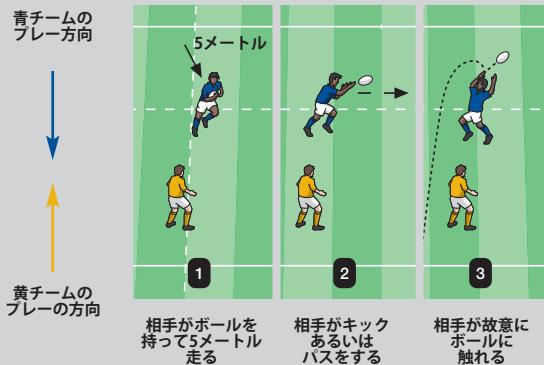
味方プレーヤーがキックした場合、キッカーまたはオンサイドプレーヤーに追い抜かれる

味方の行為によりオンサイドになるプレーヤー

### 11.3 相手側の行為によりオンサイドになる場合

一般のプレーにおいて、オフサイドにあるプレーヤーが相手側の行為によりオンサイドとなるには次の3つの方法がある。ただし、10メートル規則によりオフサイドとなるプレーヤーには適用されない。

- (a) **ボールを持って5メートル走ること**：相手側のボールキャリアーが5メートル走ったとき、そのオフサイドにあるプレーヤーはオンサイドとなる。
- (b) **キックまたはパス**：相手側のプレーヤーが、ボールをキックまたはパスしたとき、そのオフサイドにあるプレーヤーはオンサイドとなる。
- (c) **故意にボールに触れること**：相手側のプレーヤーが故意にボールに触れ、しかもそのボールを受け損なったとき、そのオフサイドにあるプレーヤーはオンサイドとなる。



相手の行為によりオンサイドになるプレーヤー

## 11.4 10メートル規則によるオフサイド

- (a) 味方のプレーヤーが前方へキックしたとき、前方にいるオフサイドプレーヤーは、ボールをプレーしようとしている相手側、またはボールが地面に着くもしくは着くと予想される地点から10メートル離れた、ゴールラインに平行な想定されたラインより前方にいる場合には、試合に参加しているものとみなされる。このオフサイドプレーヤーは、この想定された10メートルライン、または、10メートル以内の場合はキッカーの後方まで直ちに移動しなければならない。また、移動中に、相手側プレーヤーを妨害してはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (b) このオフサイドプレーヤーは、移動中、相手側のいかなる行為によってもオンサイドにならない。しかし、完全に10メートル移動する前でも、味方のオンサイドプレーヤーがこのオフサイドプレーヤーの前方へ走り出た時にはオンサイドとなる。

**罰：ペナルティキック**

- (c) 10メートル規則によりオフサイドのプレーヤーが、ボールを受けようとしている相手側プレーヤーをチャージするときは、レフリーは、直ちに笛を吹いて罰を科さなければならない。ちゅうちょすると、相手側のプレーヤーに危険をおよぼす。

**罰：ペナルティキック**

- (d) 10メートル規則によりオフサイドのプレーヤーが、相手側のプレーヤーが受け損じたボールをプレーしたときは、ペナルティキックを科す。

**罰：ペナルティキック**

- (e) 10メートル規則は、ボールがゴールポストまたはクロスバーに当たった場合にも適用する。問題は、ボールの着地点である。オフサイドにあるプレーヤーは、想定された10メートルラインの前方にはならない。

**罰：ペナルティキック**

- (f) プレーヤーがボールを蹴り、相手側のプレーヤーがそのキックをチャージダウンし、そして、ゴールラインに平行な想定上の10メートルラインの前方にいたキッカーの味方のプレーヤーがボールをプレーした場合、10メートル規則は適用されない。ボールがタッチに出る、または、相手側のプレーヤーによってプレーされるが、チャージダウンされなかった場合は、10メートル規則が適用される。

**罰：**一般のプレーにおいてオフサイドで罰せられる場合、相手側は、反則の地点でのペナルティキック、または反則した側が最後にボールをプレーした地点においてスクラムか、のいずれかを選択する。最後にボールをプレーした地点が反則した側のインゴールのとき、スクラムが選択された場合の地点は、その最後のプレーの地点に相対する、ゴールラインから5メートルの地点。

- (g) 味方のプレーヤーが前方へキックしたとき、前方にいるオフサイドプレーヤーが複数、前方へ動いた場合、反則の地点は、ボールを待っているプレーヤーまたはボールが地面に着く地点に最も近いオフサイドプレーヤーの位置とする。

### 11.5 10メートル規則によるオフサイドプレーヤーがオンサイドになる場合

- (a) オフサイドプレーヤーは、想定された10メートルラインの後方まで後退しなければならない。後退しない場合には、反則を適用される。
- (b) このオフサイドプレーヤーは、完全に10メートル後退する前でも、本条2で述べた味方の3つの行為のいずれかでオンサイドとなりうる。しかし、このオフサイドプレーヤーは、相手側のいかなる行為によってもオンサイドにはならない。

### 11.6 偶然のオフサイド

- (a) オフサイドにあるプレーヤーが、やむなくボールまたはボールキャリアーに触れた場合は、偶然のオフサイドである。そのプレーヤー側が利益を得なければプレーは続行する。そのプレーヤー側が利益を得た場合は、スクラムを組み相手側が投入する。
- (b) プレーヤーが前方にいる味方のプレーヤーにボールを手渡した場合には、ボールを受けたプレーヤーはオフサイドである。その行為が故意である場合にはペナルティキックを科し、故意でない場合は偶然のオフサイドと見なし、スクラムを組み相手側がボールを投入する。

## 11.7 ノックオン後のオフサイド

プレーヤーがノックオンしたボールを、オフサイドの位置にある味方のプレーヤーがプレーしたとき、そのプレーで相手側から利益を奪った場合にはオフサイドの罰を科す。

**罰：ペナルティキック**

## 11.8 ラック、モール、スクラム、またはラインアウトにおいて後退しつつあるプレーヤーがオンサイドになる場合

ラック、モール、スクラム、またはラインアウトを形成しているとき、競技規則に従い後退しつつあるオフサイドプレーヤーは、相手側がボールを獲得して、ラック、モール、スクラム、またはラインアウトが終了しても、オンサイドとはならない。このプレーヤーは、自らに適用されているオフサイドラインの後方に退くまではオンサイドとはならない。このオフサイドプレーヤーは、それ以外のいかなる自らの行為によっても、また味方のいかなる行為によってもオンサイドとはならない。

オフサイドの位置にとどまっているプレーヤーがオンサイドになるのは、相手側の次の2つの行為によるしかない。

**相手側プレーヤーがボールを持って5メートル走ったとき：**このオフサイドプレーヤーはオンサイドとなる。相手側プレーヤーがボールをパスしても、このオフサイドプレーヤーはオンサイドとはならない。パスを数回してもオンサイドとはならない。

**相手側プレーヤーのキック：**相手側のプレーヤーがキックしたとき、このオフサイドプレーヤーはオンサイドとなる。

## 11.9 うろろろすること

「うろろろしているプレーヤー」とは、オフサイドの位置にとどまるプレーヤーのことである。相手側がボールを自由にプレーするのを妨げることは、競技に参加していることであり、罰を科す。レフリーは、「うろろろしているプレーヤー」が相手側の行為によりオンサイドとなる利益を得ることがないように注意する。

**罰：ペナルティキック**